

ハイマート Heimat

ぐんま日独協会会報

1994年 3月20日 発行

9 設立6周年
会員特集号

発行者 平形義人
発行所 ぐんま日独協会

〒371 前橋市三俣町3-11-12
☎0272-31-7212 FAX0272-32-4082



・ぐんま日独協会クリスマスの集い

・平成5年12月5日

・群馬会館地下食堂

□ハイマート9号の主な内容□

- ぐんま日独協会設立6周年大会のご案内
- ドイツ大使館・ペーター・プロマイヤー氏による5周年記念講演会
- サンタクロースとクリスマスの集い
- 会員によるエッセー・話題文芸などの投稿
- 本の紹介

お知らせ

大使ご来県歓迎

ぐんま日独協会6周年記念大会

- ・日時 '94. 4. 17 (日) PM0:30~4:30
 - ・場所 群馬会館1F「大理石の間」
 - ・費用 参加費1人2千円及び平成6年度年会費(個人3千円 家族5百円 法人1口1万円)を同封の振替用紙にて4月12日までに払込み下さい。欠席の方は年会費のみ
- 当日は駐日ドイツ大使ハースご夫妻及びシュルテ参事官を来賓としてお迎えます。又、前駐日大使木村敬三先生の講演も行なわれます。多数の会員の皆さんの参加をお待ちしております。
- ・駐車場は県庁・市役所をご利用下さい。

題字：平形義人 表紙写真：石井直人

ウイルハム ハース
Wilhelm Haas 大使夫妻来る

ぐんま日独協会 会長 平形 義人

来る4月17日群馬会館で、6周年記念大会を催し、大使夫妻を御招待申し上げましたところ、4月末日を以て離日されるご多忙な日程の中をさいて、御来県いただけることとなりました。W. Haas大使は着任以来、全国40の日独協会を重視され、1昨年ご来県下さった時も「日独協会は日独両国民の間の伝統的友好関係の橋であり欠くべからざる柱であります。今日からは群馬の大使も兼務しよう」と申されました。昨年は東京サミットのお忙しい中にも拘らず17人の5周年記念表彰を賜りました。ところが本年1月の新聞ニュースに大使離任の報道があり、耳を疑い、驚き、悲しみました。余りにも親日家すぎて、ドイツの企業の為にならない故と書かれては尚更のことで留任運動をしたいと思った位あります。然しこれは真実を伝えるものではなく、仄聞するところによれば、親孝行の為の、大使のかねてからの御希望とのこと、孝行は東洋に於て尤も大事な徳目であります。ぐんま日独協会育ての親の大使を見送ることは残念至極ですが今は大使の御心のままに、大使ご一家の御平安と御繁栄を祈るのみであります。在日中の御高導を会員一同と共に深謝するものであります。4月は桜花爛漫の好季節です。我々は日本語の上手な大使、又ゴルフ通であられる御夫妻を我が6周年大会に歓迎し、併せて大使の離日を惜別したいと思えます。会員皆様の多数の御参加をお願いいたします。

<御案内> W. ハース大使惜別

ぐんま日独協会設立6周年大会

1994. 4.17 (日) 於 群馬会館

- 0:30 開場
1:00 開会
国歌
会長挨拶
W. ハース ドイツ連邦共和国大使のことは
群馬県知事祝詞
来賓祝詞
記念品贈呈
VON, DER SPALTUNG 日本語訳 贈呈 須郷
ZUR EINHEIT 松浦
2:00 公開講演
ドイツの現状 前駐独大使 木村敬三先生
3:00 W. ハース大使御夫妻を囲み 記念撮影
大使お見送り
3:15 総会 1. 議長選任
2. 経過報告
3. 会計報告 平成5年度決算
平成6年度予算
4. 役員改選
5. その他
3:45 懇親会
4:30 閉会

<御案内>

W. ハース大使夫妻歓迎

ぐんま日独協会 懇親ゴルフ大会

・場 所 伊香保カントリークラブ(TEL0279-72-3188)

・日 時 '94. 4.16(土) AM7:30 集 合
アウト 4組 AM8:00 スタート
イン 4組 AM8:00 //

懇 親 会 PM2:30~3:30

・会 費 1万円(プレー費 各自負担)

・参加申込 協会事務所まで「郵便はがき」に

①氏名 ②住所 ③生年月日

④ハンディ ⑤自宅電話番号

御記入の上奮って御申込下さい。(但 先着順32名限定)

尚大使夫妻は終了後 クローネンベルク(宮城村)御視察予定。

設立5周年記念講演会('93.10.14)

前橋市 佐藤 進一

第2次大戦後東西に分断されていたドイツは1990年10月3日悲願の統一を遂げ、世界各国から祝福された。その後東ヨーロッパの情勢は激しく変貌し、ソビエト連邦の崩壊、旧共産圏の解体、ユーゴスラビアの内戦等、目まぐるしい変革が出現した。ドイツ自体はと云えば旧東ドイツが旧西ドイツに併合されると言う形で統一されたが、世界的不況の波は西ドイツにも及び、東側に対する支援に多額の消費を要する財政支出も底をつき、十分の成果を上げることができない現状にある。おまけに一部青年層の活動が外国人に対する暴力行為となり、ネオナチズムと呼ばれる風潮が起って来たと伝えられ、世間のひんしゅくを買っている。私自身ドイツ国内各地にいる友人にこの状況を訊ねた所、旧東側に以前から住む一部の青年層が就職難に対する意志表示として暴れたので、普通の市民は今回の不祥事に対し、深く遺憾と反省の気持ちを持っていると云う言葉を寄せて来た。

ぐんま日独協会ではこの辺の事情について駐日ドイツ連邦共和国大使館のプロマイヤー(Peter Blomeyer)書記官による講演会を、去る10月14日(休)午後2時より、前橋市大手町群馬県婦人会館で開催した。以下はその講演要旨で、通訳は大使館付き田口絵美さんである。

「統一後3年経たドイツの現状と展望」

ペーター・プロマイヤー氏

この演説を企画されたたぐんま日独協会に謝意を表す。私は本来経済担当の外交官であるが、本日は一般的なドイツ事情について述べたい。日本へ着任して16ヶ月経った所で、日本についていろいろ学んで来た。祖国ドイツとは全く異質な顔を持つ国、或いは又共通点を持つ日本は私にとって極めて興味深いものがある。

先ず日本は周囲に海を控えた島国であり有史以来民族の大移動と云うこともなく、単一の民族で生活して来た、同じ言語や文化を共有する「国民国家」(Nation State)の模範的な例である。即ち隣国と国境線を引かなく共良い国なのである。それに対しドイツでは現在9つの国と国境を接しており、ドイツと呼んでいる地域には昔からスラブ系、ゲルマン系、ラテン系の民族が生活して来た。今日ドイツには600万人の外国人が住んでおり、他方母国語としてドイツ語を話す人でもオーストリア、スイス、その他旧東欧諸国に住んでいる。ドイツの国境が長い間不確定であり、誰かドイツ人であるか否かを定める事も不明瞭であった。

ドイツはロシアに次いでヨーロッパの中で人口の多い国で、ほぼ中央に位置している。その強大な経済力をバックに



講演するブロマイヤー氏

覇権を建てようとしている推測も行われていた。この様な不信感は昔から存在して来た。隣国との関係について云えば、19世紀に起きたナポレオンとの対立を契機として、それ迄多くの小国に分かれていたドイツは民族としての連帯感を深め統一しようとする意識が芽生えて来た。然し19世紀後半になると英雄ビスマルクの下団結して第2ドイツ帝国をつくりフランスを打破した。

此の結果は益々不信感をつのらせそれが第1次世界大戦を生み出す原因ともなった。第1次大戦はドイツ側の敗北により終わったが、深刻な経済危機と誇りを失った精神的空白は危険な思想を生み出し、(ナチズム)挑発的に戦争を仕掛け(第2次大戦)その結果敗戦し国家の統一をも失った。第2次大戦後の40年間ヨーロッパの安全保障は東西両大国の対立と云う冷戦の上に置かれていた。そしてこの自由主義陣営と共産主義陣営の境界線はドイツの真中を通っていた。二つの陣営の対立が続く限りドイツは国家の統一を果たす望みを失っていた。

冷戦終結によりドイツは漸く統一を取り戻すことができ、ヨーロッパの国々は夫々の自由意志の下で「国民国家」を造ろうとする方向に向いて来た。ドイツの場合統一と共に周辺国家との国境線が確定し、対立に終止符を打つ事ができた。この上は更にヨーロッパ協同体(EC)と云う考えが出て来た。茲200年ヨーロッパでは何時も相互不信と優越感が先行し、争いを繰り返して来た。その結果は互いに勝利感はなく、敗北感を味わって来たのである。

第2次大戦後ドイツとフランスは友好条約を結び既に30年経った。ヨーロッパ閣僚理事会、北大西洋条約(NATO)、EC(初めは6ヶ国、現在は12ヶ国)の設立が之に次ぐものである。ECも初めは関税同盟を云う概念であったが、現在は統一市場と云う考え方に変わった。

一方東ヨーロッパの為の機関として、CSCE(欧州安全保障協力会議)はゴルバチョフの時代に作られた。経済の面では80年代後半から西ヨーロッパの景気は後退しているが、ECを支えとして東欧の経済とも協力して最終的には之等の国々を加盟国として迎えることである。即ち安全保障及び経済と云う二つの面でドイツは指導的役割を果たすのである。最近ではPKOとしての仕事も果たせられており、国内で論議を巻き起こしていることは日本と同じである。

CSCEの強化と云う面でもドイツはイニシアチブを取っており、この4月に外交官ヘンク氏はここ初の初代事務総長となっており、日本はこのドイツの立場を進んで支持してくれた。

東側に対する支援もG7で決まった事をドイツは多としている。ドイツの豊かさは自由で障壁のないことに依るもので、輸出の72%はヨーロッパに向けられている。

ドイツ統一に対する内政への影響を考えて見よう。先ず外国人との関係、次に経済に対する影響、そして一番重要なのはドイツ人の精神構造に対しての問題である。同じ協同

体に生きると云う考え方は19世紀以来培われた。この意識は1989年ライブチヒにて「我々は同じ国民である」と云う結論を生み東ドイツを倒したのである。その結果あの統一が成されたのであるが、現在問われているのは内的問題である。40年間二つの別な体制の中で生きて来たと云う事は思想行動の面で大きな相違を生んだ。自由な意見、行動が西側では珍重され、東側では他人との協調と扶助する事が美德とされて来た。就中経済力の相違は著しい格差があった。西ドイツでは東側の人をオスティアーズ(東野郎)と呼び、東では西側をヴェッシイズ(西野郎)と呼んでいる。人々の頭の中にベルリンの壁は依然として存在していたのである。これを解消するには先ず西側が他人と解り合い、分かち合うと云う事を学ばなければならない。西側の人は東側の人の感謝の念が足りない事を上げるが、東側の失ったものの大きさを考えていない事に由来する。統一により職を失ったもの(例：公務員)は多く、昔の方が良かったと考える東側の人は多い。若い人の中には心のより所を失い、生活の目標が無くなってしまった者もある。その結果として外国人に対し暴力を振ったり攻撃した事は皆様ご承知の通りである。冒頭ドイツには600万の外国人が居る事を述べたが、その内訳はどうなっているかと云うと、無期限滞在権をもっている人が居る。彼等はEC出身者で長い間ドイツに住んでいる。次にトルコ又はユーゴスラビア人で70年代の労働力供給のためドイツに定着した。併し景気の後退により、現在では過剰供給の状態となっている。これ以外に難民保護者として入国したものが居る。従来ドイツはナチズムに対する反省から難民に対し極めて寛容な政策をとって来た。併し憲法に盛られた理念と現実は全く別の様相を呈して来た。難民保護権を申請する人は途上国の人々で、政治的に迫害を受けていなくとも、ドイツに行けば楽になると考えている人々であった。1992年にこの保護権を申請した人は43万8千人にも上った。政府はこの人々に対する保護政策に堪えられなくなって来た。政治的に迫害されて入国した人々に対しては依然としてドイツは寛容である。単なる経済的貧困による入国者に対しては門戸を閉ざす事にした。それは統一により莫大なコストがかかり、東西ドイツ人の生活は現在切り詰められて、失業もふえている。彼等ドイツ人にとっては、住居や職業を与えられる外国人は羨望の的である。東側の若者たちが統一によりドロップアウト(落伍)した者は、価値観の変容により、不安定な気持ちから外国人に対し暴力に走ったのである。

併し乍らこの傾向に対して、圧倒的多数のドイツ人は反省の態度を示した。1992年11月この為のデモに参加した人は多くの都市で300人に達した。外国人排斥、反ユダヤ主義又は右翼思想に対し、ハンブルグやミュンヘンはローソクを掲げた静かなデモが起こったが、40万人が行進した。現在ドイツ各地でこのような運動が行き渡っているが、同時に新しい難民政策を考え出さなければならない。

最後にドイツ経済について云えば、東側は急に西側と同じ立場に立たされ、しかも従来市場とされたソ連の崩壊が起こり、流通が閉ざされた。その上彼等の低い生活水準は容易に西側に追い付かないのである。その生産品は西側より低い水準である。道路、鉄道、電話等凡て西側より劣っている。まずこれを西側並みに引き上げる事が必要である。ドイツは現在連体協定をつくり連邦政府州政府、自治体、経済界、労働界、各政党が一丸となって、1995年目指してドイツ再建に取り組んでいるのである。(終)

● クリスマス ●



●プレゼント交換風景

たのしかったX'マスパーティ

高崎市 伊藤 廉平

素晴らしいX'マスパーティにご招待下さりありがとうございました。

会員の皆様やそのご家族の温かい雰囲気の中で歓談出来ました事は、私にとりこの上もない喜びであり、楽しさでありました。

私どもでは子供達も社会人となり家庭内で祝うX'マスの機会は本当に少なくなりました。

会員で合唱しプレゼントを交替する行事は何年ぶりの事でせうか。

平形会長の心くばりと気どらない司会進行でパーティは一段と盛り上がり愉快に終始いたしました。

同時に参加者の善意と温情に満ちた協力のあった事も見逃がせません。

X'マスは誰の胸の中にも、過ぎし年々に想い出のある行事です。あの年は何処で誰と秘かにそして私も若かった、たのしかった等々、1993年のX'マスは群馬会館の地下食堂で「ぐんま日独協会」の主催で賛美歌を歌い皆様とたのしんだ事は忘れない記憶の片すみに留る事と存じます。

本年も又皆様と再会し、そして祝福し合い喜びを分かち合える様に健康に注意して悔いのない日常生活をすごしたいと存じます。

◆天井に届くクリスマスツリーは正真正銘の樅の木（吾妻産）で、壁には日独両国の国旗を掲げ、前橋市長代理の遠藤氏の乾杯の音頭でワインを傾けた。今年も愛の献金が¥22,000も集まり、上毛新聞に報道されました。

Wir wollen, dass man bei
J.D.G.in Gunma Spass hat,



文・イラスト 前橋市 田口久美子

12月5日(日)群馬会館地下レストランに於て、ぐんま日独協会のクリスマスパーティが開催されました。

大きなクリスマスツリーに魅了されて、聖夜をうたいワインを味わい話にも花が咲きました。小さなプレゼントが

まるでおとぎの国のキラキラ輝く宝石箱のように感じられたのも本当の事です。ここに出席した会員総て童心に戻り、平形会長と中村先生のツヴェイリングのサンタクロースのおかしさは言葉に表すことができないのでイラストで紹介することにいたしました。次回はもっと大勢の会員の方々と楽しさを分かちたいと思います。



●さあ、お歌のお稽古・皆さんご一緒に

●3分間スピーチもなごやかに



写真集の日本語訳

高崎市 須郷 登世治

昨年の6月、ドイツ大使ハース様より、価値ある表彰状を賜わり、記念品として「分裂から統一まで—1945~1990年」と題する立派な写真集を戴きました。しかし、説明は、独 英仏の三国語であったので、この本の内容を真に理解された人は少ないと思いました。そこで、私なりの日本語訳を完成いたしました。未熟な翻訳ですが、すばらしい、この本の内容を少しでも理解して戴ければ幸いです。何箇所かを、田口様のお世話になりました。印刷と製本は、ぐんま日独協会事務局が、為し遂げて下さったものです。部数は余裕がありますから、事務局にてお受け取り願いたいと思います。

第二次大戦に破れたドイツは、1945年5月8日、連合軍に降伏した。ドイツの占領政策について、米英仏とソ連は対立し、ドイツは東西に分裂させられてしまった。「我々は同一民族である」との熱意は実現し、1990年10月3日、ようやく統一することができたのであります。その切々たる内容が、この「写真集」によって、よくわかります。

~~~~~



### 日独シンポジウムを聴講して

「真の豊かさを求めて」との題で、日独シンポジウムが日独協会主催にて日経ホールにおいて行われ、群馬からは、平形、中村、佐藤、須郷の4名が出席した。ハース大使の開会の挨拶に続き ①2月21日(月)10時より、中央集権と地方分権について。歴史的に日本は中央集権国家であったが、ドイツは小国分立による連邦国家であった。バイエルンはナポレオンとも戦い、プロイセンとも戦わねばならなかった。EU(欧州統合)は州の主権をどこまで認めるであろうか。②午後の部では、経済の役割について。経済は製品の質によって競争すべきである。社会主義国を資本主義国に転換するのは大変である。東ドイツはどうにかなったが、ロシアは混乱している。③22日(火)午前部。ゆとりと安心の社会について。出生率が低いので、年金制度をいかに支えて行くか。高度な質の社会福祉サービスが必要である。④新時代での価値観について。人間は機械に使われている。機械の部

品であってはならない。エリート主義は捨てられる。農民と武士の社会は、家と忠義の時代であったが、商人と職人の台頭により価値観も変り、今や終身雇制も変ってきた。日本人とドイツ人は勤勉だと思っていたが、今はダメだと思っている国民もある。価値観は変ってきた。以上、2日間の4セッションを要約して聴講報告とします。

## 「地底の客人」

館林市 対馬 良一

私は以前ハイマートに記載したことがありますが、日本の石炭産業が華やかな時代、炭鉱技術習得のため、1958年(昭和33年)より1961年(35年)迄の3年間、三菱鉱業(現、三菱マテリアル)より派遣されドイツの炭鉱で働き、学んだ経験があります。東西ドイツの統一後のドイツでは、失業者が増加し外国人労働者に対する風当たりが強くなり、一部過激派による襲撃事件も多発しているようで、残念でならない。第二次世界大戦の敗戦により極度な労働力不足に陥り、トルコ、ギリシャ、ハンガリーなど多くの外国人移民や労働者を受入れたが、ドイツの社会風習に馴染めず、自国の風習をドイツに持ち込み独自の社会を作った事がトラブルの原因の一つであると知らされた。私達がドイツで働き学んだ時代は、戦後10数年後の、貧しい日本という極東の小国の若者が自国の名誉と日の丸、そして会社への責任感から積極的にドイツ人社会にとけこみ頑張った事を思い出す時、今のドイツでの事件が信じられない程である。

私の友人である三井鉱山出身の高口岳彦氏が当時のドイツでの労働、生活などを記し、「地底の客人」と題し自費出版した。資金は私が全国の仲間呼びかけ用意しました。ドイツのポッホム市にあるドイツ鉱山博物館にも寄贈しましたが札状と昨年8月ポッホムで「ドイツ鉱山の外国人展」が開かれ大きな反響を呼んでいる旨の新聞記事が博物館資料担当者である、エフェリン・クローカ女子(博士)より送られてきた。その中に、高口氏の著いた「地底の客人」を紹介していた。

「19世紀から戦前、戦後を通じてルールに各国から多くの外国人が来て、中には人間的な扱いを受けなかった時もあった。外国人労働者にまつわる問題は多い。しかし日本人が書いて当所に寄贈されたこの本には、ルールにおける経験、日常生活、労働、仲間、など描かれ、これこそ外国人とドイツ人との関係における前向きな信号としてとりあげるべきである……」などと持ちあげています。

私と高口氏はこれを機会に我々の足跡を何らかの形でドイツ博物館にも残したく、仲間に当時の写真を集めるため依頼中です。今年8月、全国の仲間を東京中野のサン・プラザホテルに集め当時の思い出を語り合う会を開く事に決めております。その時までには写真集を完成させるため活動中です。

前記の本、「地底の客人」は、ぐんま日独協会事務局と館林市図書館に寄贈してありますので希望の方はご笑読下さい。



## 「動詞の過去形」

沼田市 角田 勤

動詞はドイツ語の勉強で特に大事なのですが、本を読むには過去形が重要です。

沼田ドイツ語会では、グリム童話を沢山読みましたが、その時に閉口したのは過去形でした。最近では大部慣れてきましたが、これからもしっかり覚えて、ドイツの文学を読んでいきたいものと考えてます。

過去形のバズルを作りましたので挑戦してください。ごく易しい、しかも大事な動詞ばかりです。

### KREUZWORTRÄTSEL (動詞の過去形)



- Senkrecht (たてのカギ)**
- とどまる
  - 食べる
  - 注ぐ
  - 質問する (古語)
  - 見つける
  - 呼ぶ
  - 考える
  - する
  - 引き裂く
- Waagerecht (よこのカギ)**
- 投げる
  - 行く
  - 曲げる
  - (...という)名前である
  - 運転する
  - 横たわっている
  - ...してもよい
  - 流れる
  - 横む

### バーデン・ヴュルテンベルグ州観光局

副総裁 Rudolf Forcher ご来県(9/27~9/28)

昨年『ファンタジー街道』を結成した頭記観光局は、此の度群馬に協力を求めて来訪した。すでに去る5月招待され訪独した久保洋団長、角田勤ぐんま日独協会副会長が中心となり歓迎し、沼田市、水上町(谷川視察)伊香保町、前橋市を訪れ、知事はじめ各市長、町長に表敬訪問し、上州の秋を満喫して帰京した。



↑ 菊地通訳 Rudolf Forcher 深井(伊香保町長) 久保 洋  
AXEL Grau 平形義人  
Ilona Mengede 角田 勤

### 甘くない日独交流

川口市 松浦 孝久

△日本人の糞野郎ノ金の亡者めノゴミノ出ていけノ▽  
S-Bahn(市街電車)の中で、1人のみすばらしい老婆が私達の姿を見て大声でわめき始めた。

彼女は2つ先の駅で降りるまで、ずっとこの調子でまるで人種差別としか考えられない言葉で私達をののしり続けた。1992年12月に結婚し、1993年6月になってやっと10日間の

休暇がとれ、新婚旅行の形でドイツを訪れた。日程はベルリン5泊、ミュンヘン3泊でこの老婆のののしりは後半ミュンヘンにいた時のひとコマだ。

大学で国際政治を学んでいた私は当時まだ東西世界の接点であったベルリンで生活してみたいと



写真説明：壁の崩壊で通行が自由になったブランデンブルグ門。かつてはベルリン分断の象徴だった。

考え、1986年10月大学を休学し渡独した。最初の4ヶ月は語学学校に通い、ベルリン工科大の外国人編入試験を経て社会学部に籍をおいた。戦後の世界政治の動きを、ベルリンの壁成立を中心テーマに学ぶことにした。そして壁研究のフィールドワークとしてまた「何か形に残ることを」と考えていた私は、西ベルリンを囲っている壁を歩き通し写真を撮りまくった。壁の総延長約160km。その全域を踏破、壁の向こう側の様子や壁をめぐる東西の動きをつぶさに観察した。

今回5年ぶりに訪れたベルリンは壁の崩壊と東西ドイツ統一を経てすっかり変わっていた。コンクリート製の壁自体はもちろん、その裏の無人地帯にあった監視塔も有刺鉄線も警報装置も(一部の地区を除き)すべて撤去されていた。そしてある所はただのさら地に、またある所は資材置き場や駐車場になっており、かつてそこを越えようとして80人以上の犠牲者が出た壁があったとは思えない変貌ぶりだった。当時は壁で遮断されていた道路も復活、車や人が当たり前のように行き交う何の変哲もない街の一風景となっていた。しかし変わったのは風景だけではなかった。今回の旅行で再会した友人の家庭にも影響が及んでいた。彼らは、旧東ベルリンに住んでいるが、奥さんはコンピューターのプログラマーをしていた。統一後国境がなくなると彼女は西ベルリン側にも行動範囲を広げ東側より進んでいた西側のコンピューター技術に触れるチャンスを得て、今までよりも仕事に熱中。家事をしなくなったため、夫と激しい口論になった末、彼女は娘2人をつれて家を出てしまった。それ以来、別居状態が続いている。統一は壁ばかりでなく、家庭の崩壊までもたらしたといえる。

また統一してみると、東西の経済力や生活水準の違いが表面化。これを埋め合わせるのに必要な費用がドイツの国家財政を圧迫している。旧東ドイツ側では、かつての社会主義体制のもとではありえなかった失業者が続出し、失業率は14%という。

こうした背景に加え、増え続ける一方だった難民流入(昨年1年間で40万人以上)もあって、一部市民の間にも不満がくすぶっている。ベルリンでもミュンヘンでも昔は見られなかった、地下鉄車両のはでな落書きはその表れといえよう。また外国人排斥を叫ぶネオナチの台頭も見逃せない。ゾーリングン市でトルコ人住宅が放火され、5人が焼死した事件は記憶に新しい。その後も、犠牲者こそないものの、トルコ人住宅への放火事件が相次いでいる。

確かにネオナチは極端な例で、ほんのひと握りの連中だ。また本協会5周年記念大会の講演で、J.クライナー教授も「ドイツ人は日本に対し好意的」と話された。しかし一方で、(詳しく説明されなかったが)「近年、若者の間で日本に批判的な層も増えている」とも指摘。のどかな田園風景や美しい教会や古城などドイツの美しい面を見て歩くのも素晴らしいことだが、厳しい状況もドイツの現実だ。(1993.7.15記)

## 通りすぎし風

前橋市 土屋喜代子

昼下がりに楡の並木通りいつもの初冬は黄金の帯が長く長くつづくのに！信号待ちの車の中で女は思った。この夏の気候のためかしら？そのまま大樹を目で追上げながらまだ青い葉と黄色の葉が適当に残されている。まるで人と同じ様だ50代、いや60代かな？

ある人は言ふ「大樹には神様がいます」とか、頭の中をチラッとよぎった。新芽が吹き出し目に見える力で多くの葉を花をつける。そんな時の台風や大雨から風など枝がしなる程小鳥をか、えてもびくともせずがんばって居る。まるで若き日の女を見た。そんな大樹もさらにさらに大きな力の自然の気候にはかなわなかったのだなあ！ふっと我に帰り車を進めた。昼下がりの太陽は輝いていた。

ほんのつかの間のとをり風だった。

|       |              |              |       |                |             |       |
|-------|--------------|--------------|-------|----------------|-------------|-------|
| 大雪の祈り | 静かなる早朝あけて大雪に | 世界のすべて美しくあれと | 二月十二日 | 来し冬に落葉あつめつ腰のばす | 老母の髪がきらり光れり | 土屋喜代子 |
|-------|--------------|--------------|-------|----------------|-------------|-------|

## ボンのホテルで

前橋市 古屋賀津子

今はもうなつかしい思い出ですが、ボンのケーニスホフホテルに宿泊した時の事です。私はいわゆるツアーで旅行した事はありませんので、小さな失敗は始終ありました。

娘と2人、その日も見たいもの行きたい所が多くて、気付かないうちに遅い時間になって居ました。シーンと静まり返って居るホテルの扉をおそるおそるあけますと、待ち兼ねたようにフロントの方が、知人から何回も電話があったとのこと、異国の空のもと、どんなに心配して下さったかと平あやまり…。お食事はと、聞かれても、大丈夫ですと答えたものの実は空腹でした。政府関係のお客様の多い格式の高いホテルですので、今頃(午後10時を過ぎていました)ルームサービスを頼んでは悪いように思えたのですが、注文してみますと嫌な顔一つせず応じて呉れました。待つ程も無く部屋に届いた時2度びっくり、外国映画で見たように立派なワゴン車を3台、きちんと制服を着たボーイさんが運びこみ、シェフが目の前でステーキを焼いたり素晴らしい夕食でした。当然とも言えるかも知れませんが、熱いものは熱く……冷たいものは程よく冷えて心のこもるものでした。

日本では時間なぞ関係なく注文できますが、そのかわり、あれだけのものが作っていただけたらお値段が驚く程に成ると思います。旅先の事でもあり少々心細かったのですが、高価なのは仕方のない事と覚悟して会計にのぞみましたところ、館内のレストランでの食事と変わらないので、胸をなでおろしたものです。

サービスマンの何たるかを考えさせる事でしたが省みて我々の国では如何かと、今更のように洗練された人々の扱いぶりに大人を感じましたし、頭の下がる想いでした。

## ボーデン湖散策(その一歩)

沼田市 古藤 菊野

ボーデン湖は、ドイツ人の誇るドイツで一番大きな湖です。琵琶湖とは姉妹関係で大きさからいけば妹です。しかし位置からいけば大きいなぜならば、この湖は3ヶ国籍を有しているからです。ドイツの対岸は、あのスイスそしていくんだ湖のはしは、オーストリアです。満々とした湖水はス

イスアルプスの雪解けが源水で、ここよりライン河の流れが始まります。ゆるやかな雄大な流れは、父なるラインと呼ばれ人々の心のより所となり、又幾多の風光明媚を生み、ロマンを作り、ワインを育て、オランダの海へと流れ行くのです。その流れは、今なお父なる立場を自負し、ドイツ国の経済を支え文化を形成したドイツの歴史の流れでもあります。この流れがドイツ国民の気質や暮らしをもはぐくんできたのです。運河ばかりでなく、ボーデン湖では大掛りの浄水研究場を作り飲料水として黒い森を通り抜け、南ドイツの都市シュトゥットガルトの街に運ばれています。もちろんボーデン湖は、自然保護地区をそなえ水鳥や木々、植物も守られ人々は木組の高台より双眼鏡をのぞき、声をしその自然の屋形に近づく事ができるのです。又ドイツにしては温暖なこの地には自然に環境に恵まれた良さが生かされ、保養地としても有名で沢山の観光客を迎えています。クワーハウス・健康村やキャンプ村などの指定地もありますが、騒音規制により昼休みなどは、大声はもちろんのこと、散歩することさえひかえます。特に夏のボーデン湖は、水上音楽祭を始めバロック教会めぐりや自転車をつらねたグループ旅行、ヨットとスポーツ家族のあこがれの地でもあります。遊覧船の行き交う町々には、水と緑を求め人々の足音が時をきざみます。晩秋には大きなプラタナスの葉が舞い、忍びよる濃霧はボーデン湖と共に近辺の町迄も包み哀愁と幽玄の世界へと変容していくのです。(1994.2.19記)

## ドイツ・バーデンビュルテンベルグ州を訪ねて

沼田市(上原町) 植田 滋

昨年5月末から6月初旬にかけて、ぐんま日独協会の角田副会長らとともに、ドイツ南西部のバーデンビュルテンベルグ州を訪ねる機会を与えられました。学生時代にオーストリアには行った経験があったのですが、ドイツ訪問は今回が初めて。ドイツのDの字も知らない身ながら、簡単に旅の印象を述べさせていただきます。

シュトゥットガルト、カルフ、バーデンバーデンなどの都市を巡って気付いたのですが、街の中心から自動車を締め出し、歩行者天国をどどんと拡張しているのは新鮮な驚きを感じました。人々は、街では自転車ですいすいと行き交っています。コンクリート舗装の道路はかつての石畳に戻されつつあります。つくづく思いました。ドイツでは、日本よりはるかに、人に優しい「公共の場」が重視され始めているんだと。

旧市街の景観は、昔のままの建物の外観が復元されつつあります。電柱も日本のように無闇やたらに立っていないため、町並みがスッキリしている。現地では「この差はいったいどこから来るのだろうか？」と考え込ませるを得ませんでした。たぶん「公」と「私」の区別がはっきりしている国とそうでない国との違いなのだろう、などと決めつけて納得したのですが……。

群馬も昨年ようやく県景観保護条例が制定され、「美しい町並み」に向けての取り組みが始まりました。これは喜ばしいことだと思います。しかし、「日本での美しい町並みの実現とは、いったいどんなものだろうか？」と考えると、どうもはっきりしません。戦前の伝統的の家屋を壊し、ひたすら近代的機能を追求してきた日本の町並みに、果たして「美しさ」なんて要素を取り込めるのだろうか。これからよく考えていく必要がありそうです。

ドイツ滞在中、何人かのドイツ人がこんなことを言っていました。「過去から学ぶことによって私たちは現在、未来を生きていくことができるんです」と。そしてふと、思いました。「もう戦前と戦後を分けて考える歴史観を乗り越え、新たな価値観が必要な時代になってきているんだな」。また、ドイツを訪ねたいと思います。ドイツでなく「日本」の過去が見えてくるかもしれないから。

## 赤城高原牧場 KRONENBERG (クローネンベルグ)

本年4月9日(土)、勢多郡宮城村苗ヶ島の前橋刑務所赤城農場跡地にドイツ農村をテーマにした観光施設、赤城高原牧場 KRONENBERG クローネンベルグ がオープンします。

当施設は宮城村の村おこしの一環として、宮城村、西条金属(株)、宮城村JA、戸田建設が出資し、第3セクター方式で運営するものです。

総面積36㍍に、石畳のヨーロッパ街並み、資料館、レストラン、バーベキューハウス、加工施設(ハム、ソーセージ、チーズ、アイスクリーム、パン)直輸入品を扱う売店、羊の放牧場、イベント広場、乗馬場、バラ園、遊具施設等が計画されています。

ドイツワインの生産地であるナーエ地方ヴァルハウゼン村の公爵家の醸造所と提携してワインの輸入直売、本場ドイツからハム、ソーセージ、チーズ、パンの製造職人を招く等ドイツの食文化を積極的に取り入れる試みです。また、バイエルン地方より民俗芸能グループを招き、常時、イベントを行い、その他にも日欧間の国際交流の場を提供していきたいと考えております。

資料館では、ドイツ農村の歴史やヴァルハウゼン村公爵家の歴史を展示した部屋、絵画展(4～7月は福沢一郎展を予定)等、四季折々の企画を計画しております。

レストランやバーベキュー施設等は1,500席、駐車場スペースは乗用車3,000台、大型車60台を用意し、年間30万人以上の入場者を見込んでいます。

入場料は、大人1,000円、小人500円、4才未満は無料、団体割引も有ります。

是非、赤城山麓のドイツ“KRONENBERG”にお越しください。

赤城高原牧場 KRONENBERG  
群馬県勢多郡宮城村苗ヶ島2331番地  
TEL: (0272)83-8451 FAX: (0272)83-8452  
事業企画部 久門圭子



クローネンベルグ所在地地図



## ▶ 著書紹介 ◀

### ○ 「花・ベルツ」への旅

眞寿美・シュミット=村木 著 講談社

定価 1,800円

明治9年来日、日本医学の基礎を築いたドイツ人医師ベルツと、妻の「花」、孫・ゆかりの人たちに聞く愛と波瀾の生涯。

### ○ 「帰ってきた ブルーノ・タウト」

朝雲久兒臣 著 風土記出版委員会

発見と出発の叙事詩 Tel 0273-43-9126

定価 2,000円

### ○ 「もうひとりのブルーノ・タウト」

朝雲久兒臣 著 上毛新聞社

著者が精魂こめたタウト文明批評家論

定価 3,500円

“Von der Spaltung zur Einheit” の  
第二部「写真説明」部分の邦訳(会員 松浦  
孝久担当)が事務所に備えてあります。

## ◇ 投稿ご案内 ◇

日独交流につながる(ご感想・情報・会員消息・作品)を住所・氏名・職業・年齢・電話番号明記の上、お寄せ下さい。紙面の都合で編集部で手直しさせていただくことがあります。(800字以内)

◎原稿の返却はいたしません。

宛先: 〒371 前橋市三保町三丁目11番地12号

ぐんま日独協会

TEL 0272(31)7212 FAX 0272(32)4082

## ◎◎◎◎ 編集後記 ◎◎◎◎

前号は紙面と編集の都合のため、掲載出来ない原稿がありまして大変失礼いたしました。

毎号、出来るだけ沢山の会員の文章を載せたいと願っておりますので、上記のご案内のように、どしどし原稿を送っていただきたいと思っております。

時には厳しいお叱りも頂戴いたしますが、これも私どもへの有難い激励、助言と思い感謝しております。これからもご指導ご協力をお願いいたします。

4月17日の総会に、またお会い出来るのを楽しみにしております。「ドイツ好き」の温かい交歓の時でありたいと願っております。

Also.bis dahin!

(編集部)